

解説書等作成の進捗状況について

2018/10/11

2018年版 ガイドライン 構成	編成方針		課題・論点（案）	進捗状況
	ガイド	解説書		
はじめに	○		(導入)	素案作成済 第2回検討会で審議(初)
序章	○		・持続可能な社会とは何か。移行に伴う事業活動への影響について ・環境報告書とは何か。なぜ今、環境報告が重要なのか	素案作成済 第2回検討会で審議(初)
第1章 環境報告の考え方				
	○		・環境報告とは何か ・環境報告の開示媒体 ・環境報告で開示する情報の特性	作業中
第2章 環境報告の記載事項 ・・・それぞれの具体的な記載事例を提示				
1. 環境報告の基礎情報				
(1)環境報告の基本的要件	○		・バウンダリー等の詳細説明。事業者の環境経営のステージに応じた、報告対象組織や期間が異なる場合の記載方法（補足率や除外の理由など） ・基準等の適用に関する表現 ・他の企業報告媒体との関係を示す実例	作業中
(2)主要な実績評価指標の推移	○		・事例を交えて詳しく記載 ・原単位の説明	作業中
2. 環境報告の記載事項				
(1)経営責任者のコミットメント	○		・資本の提供者に対して、自然資本を含め資本をどのように利用し価値創造したかについての説明 ・重要な環境課題への対応の長期ビジョンにおける位置付けや経営戦略との関係性など、事業者の将来見通し情報と関連付けた記載方法	作業中
(2)ガバナンス	○	○	・コーポレート・ガバナンス報告との親和性向上 ・TCFDやCDPへの対応	素案作成済 委員事前コメント済 第2回検討会で審議
(3)ステークホルダーエンゲージメントの状況	○		・ステークホルダー（読者）の想定方法 ・将来の成長性に関する投資家の情報ニーズの充足	作業中
(4)リスクマネジメント	○	○	・外部環境の変化の事業者への影響をとらえるしくみ ・TCFD対応	作業中
(5)ビジネスモデル	○		・ビジネスモデルのイメージ（構成要素）と環境の位置づけ、日本の事業者が記載する場合の想定	素案作成済 第2回検討会で審議(初)
(6)バリューチェーンマネジメント	○	○	・バリューチェーン課題の識別・開示方法についての技術的サポート ・バリューチェーン情報のデータ収集方法や計算・加工方法についての技術的サポート ・事業者がサプライヤーや流通業者等に影響力を行使できない場合の対応（協力依頼やチェックの実施） ・バリューチェーン中のリスク評価（マッピング等）	素案作成済 第2回検討会で審議(初) ※解説書は委員事前コメント済
(7)長期ビジョン	○		・「長期」の考え方、国際社会の合意目標例 ・長期ビジョン（ありたい姿）と目標の取り扱いの具体的な例示、実例 ・特に気候変動に関する長期ビジョンの促進	作業中

2018年版 ガイドライン 構成	編成方針		課題・論点(案)	進捗状況
	ガイド	解説書		
(8)戦略	○	○	・長期ビジョン達成に向けた道筋の示し方 ・持続可能性社会へ適合し、自ら持続的に成長可能であるというビジネスモデルの強じんさの説明(シナリオ分析、TCFD対応)	作業中
(9)重要な環境課題の特定方法	○	○	・一般的な重要性の判断方法、マテリアリティ特定プロセスの考え方 ・バリューチェーン課題の識別・開示方法についての技術的サポート ・啓発的な事例と注意点の提示 ・考え方は提示するが、具体的な決定方法は事業者の裁量であることへの留意	素案作成済 第1回検討会審議済 第2回検討会で審議(再)
(10)事業者の重要な環境課題	○		・全ての「主な環境課題(参考資料パート)」に共通する手引き要素の特定 ・財務的影響を含めたリスクと機会の評価手法、算定方法等 ⇒適切な場合は参考資料(課題別)の解説書で対応 ・保証報告のあり方 ・(事業者の重要性判断に応じて報告が望ましい場合)サイト単位データについて	作成中
参考資料 主な環境課題とその実績評価指標 ・・・海外基準も参考に指標及び算出方法等記載				
1. 気候変動		○	・2012年版より排出原単位計算の詳細、GHGプロトコルでの説明、CO2以外のガスの説明 ・再エネルギーについての記載追加 ・削減貢献量について ・シナリオ分析について： -啓発的に意義、考え方、書き方等を提示。 -簡便なシナリオ分析の事例提示(海外事業者の場合は和訳) (第2章7長期ビジョン、8戦略などへのリンク)	素案作成済 委員事前コメント済 第2回検討会で審議
2. 水資源		○	・「流域」の考え方の方向に国際的な議論が進んでいることを事例交えて意識喚起 ・水ストレスについて ・排水量について含める	素案作成済 委員事前コメント済 第2回検討会で審議
3. 生物多様性		○	・バリューチェーンまで含めた詳説	素案作成済 第2回検討会で審議
4. 資源循環		○	・サーキュラーエコノミーの視点から説明 ・リサイクル性への言及	素案作成済 委員事前コメント済 第2回検討会で審議
5. 化学物質		○	・2012年版の有害物質等漏出量・防止策を含める	素案作成済 委員事前コメント済 第2回検討会で審議
6. 汚染予防		○	・典型7公害について説明 ・(水濁)排水量は水資源へ ・(大気)中国の規制強化などをふまえ海外事業所を含むことを強調	作業中
用語解説	—	—	・該当する解説書にて必要に応じ詳説	—
<その他・附属書>				
対照表	○		・GRIスタンダード、TCFD等と関連づけた対照表の作成	(最後に作成)
評価手シート	⊖		→中小企業向けに2012年版から内容更新	作成しない

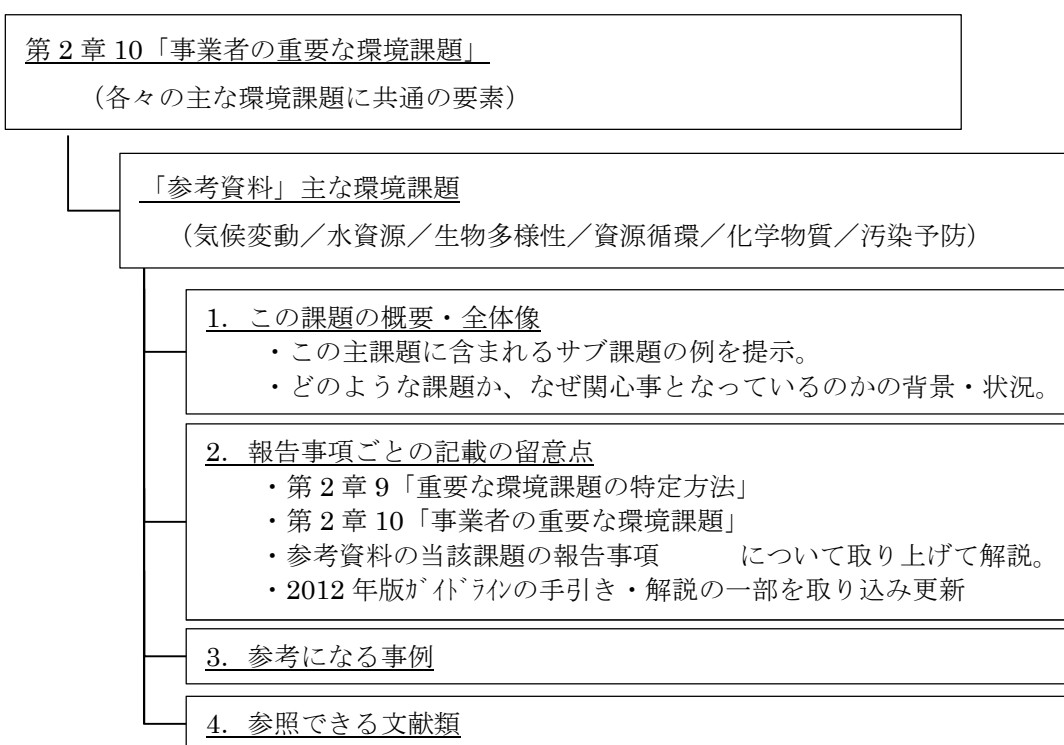
<解説書等の作成の基本的な進め方>

第1回検討会の結果及び作業の進捗状況をふまえ、下記を訂正。

- 「~~手引き~~(作成ガイド)」とは：~~中小~~中堅企業・初心者をターゲットイメージとする、ステップバイステップの作成~~ガイド~~手引きと事例。平易な文章と図を活用した「環境報告書の記載事項等の手引き（第3版）」のイメージだが、同手引きとは異なる位置づけとする（環境配慮促進法告示に基づく同手引きは本事業では取り扱わない）。
- 「解説書」とは：作成ガイドを補足し、難解な事項について説明する独立した文書。構成は当該解説書が扱う内容によって異なる。

<参考資料の解説書作成について>

- 「主な環境課題」の解説書の基本構造（案） ※変更可能性あり



- 第2章10の作成ガイドについて
「主な環境課題」ごとの解説書案を先に作成し、その後、全ての「主な環境課題」に共通する手引き要素を特定して、共通ガイドを作成する予定。